

令和四年

献詠披講式

優秀歌



実朝賞

令和にも 大雨の害 数増して

実朝公の 願いは続く

戸張 はつ子

宮司賞

礼文では 浜いっぱいに 昆布干すと

深夜のラジオが 海をひろげる

岩崎 幸子

選者賞

土砂降りの 雨に濡れつつ 胸に抱く

父の遺影の 涙をぬぐふ

中門 和子

空からの 縦糸するする 織り込みて

静かなるかな 湘南の海

伊藤 祐楓

蛙たちの 雨の合図の 始まりて

準備ととのふ 畑の種蒔き

塚越 房子

入選

小熊の絵の　むつきヒラヒラ　風に舞ふ

八月吾娘は　母となりたり
あこ

石田 純子

パラ輪の　高飛び挑む　アスリート

跳ねる義足に　小雨が光る

稲垣 勝美

枕頭ちんとうの　窓ひしめに犇ひしめく　星無数

とらへむとする　掌に闇降りつもる

海老原 繁

豊年の　兆しと聞けば　寒中の

雨に籠もるも　又よきひと日

大塚 頼枝

花期長き　西洋朝顔　その青き

漏斗に溜まる　十月の雨

齋藤 とし子

入選

スカシユリ 咲けば一斉 栗島の

漁船出航 のぼりを立てて

高山 克子

自転車を 走らせ歌う 少女らの

歌声響く 秋晴れの道

竹山 篤守

このタスキ 渡さねばならぬ どうしても

不調の走者の 顔歪みゆく

田中 千佳子

青鷺を 仰ぎ見をれば 白亜紀の

空より雨の 降り始めたり

西村 愛美

庭石を ぬらす秋雨 この谷戸に

家族をもちし 一生を想ふ

林 彰子

入選

南へと 向かう競歩の 選手らを

追いかけて ヘリの轟音曲がる

古谷 眞利子

雨宿り、と 遅刻届の 理由欄に

書きし教へ子 いま、何してる

前田 明

日を追いて 葉数増しゆく 新緑の

その奥の滝 音だけとなる

松田 容典

ああ今が 至福のときか をさな子の

ごとき笑顔の 母百壺歳

森田 満子

入選

父に付き 転勤の孫の電話にて

初雪告げ来る 早も訛りて

森敏子

生ごみの回収済みしポリバケツ

時雨の闇に 我を待ちたり

大和 嘉章

塩舐めに 青鳩群れて 降り立てり

さねさしさがみ 大磯の浜

由田 欣一

ひつそりと 七夕飾りを 映しゐる

雨後の路面は 夕明りして

渡邊 典子